

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和07年06月05日(木)

事務事業		道路・水路境界確認事業		担当課	道路管理課	担当係	調査係	管理番号	48421	
総合計画	大項目	5	快適で利便性の高いまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務					
	中項目	2	交通アクセスの便利なまちづくり	根拠法令 個別計画等	道路法					
	小項目	1	道路・交通環境整備の推進							
	主要プロジェクト									
事業概要		申請に基づき境界確認事務を実施するもので、道水路と民有地の境界を確定させ、境界点の測量及び境界標の設置をし、適正な道路・水路用地の管理を行うとともに、境界確認申請に迅速に対応する事業である。								
目的 ※何のために		道水路とこれに隣接する土地との境界について、隣接土地所有者からの申請を受けて相互にその意思を確認し、確認された内容を将来にわたって明確にする。								
対象 ※誰・何を対象に		道水路の確認申請を受けた用地								
手段 ※どのように		基本的には担当職員により、資料収集、現地調査測量、図面作成、現地立会い等を行う。								
成果 ※何を求めるか		境界の確定により、申請地と道路又は水路との境界を明確にし、道水路の用地を適正に管理できる。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NP0等 <input type="checkbox"/> その他()								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)		
		一般会計	8	土木費	1	土木管理費	1	土木総務費	道路境界測量事業	3,350,613
本事業の 主な業務		・境界確認申請の受付					・			
		・境界復元					・			
		・道路・水路の境界確認事務					・			
		・基準点管理					・			
		・GISを活用した過去資料電子化					・			
		・					・			

2. 事業費(投入コスト)

※令和6年度は決算見込み額です。

単位: 円

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画		・GISを活用した過去資料電子化	・GISを活用した過去資料電子化	・GISを活用した過去資料電子化	・GISを活用した過去資料電子化		
事業費	予算(現額)	2,568,000	2,686,000	3,564,000	3,746,000		
	決算額	2,347,851	2,425,099	3,350,613	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0		
	一般財源	2,347,851	2,425,099	3,350,613	3,746,000		
人件費	従事職員数(人)	2.22	2.25	2.25	2.25		
	人件費相当試算※	17,470,417	18,022,872	18,500,043	19,187,595		
総事業費試算		19,818,268	20,447,971	21,850,656	22,933,595		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名	目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
活動指標 1	境界確認申請件数	目標値	件						
		実績値		358.00	334.00	329.00			
	目標値の算定根拠/実績値の出所		申請によるため、目標値の設定なし。 / 境界確認申請受付簿						
	実績値の算出式								
成果指標 1	境界復元した割合	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		実績値		83.57	93.29	97.83			
	目標値の算定根拠/実績値の出所		申請に対し、境界復元については、取下げ以外はすべて実施するため、100%とする。 / 境界復元箇所数/処理件数						
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
 目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
 事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。
 (評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	申請件数は申請者による建物等の建替えや開発動向に左右されるが、令和6年度は329件の申請を受理した。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	申請取下げや年度末の申請等の影響により、年度内に全ての事務処理を完了させることはできなかったが、復元割合としては前年度同等以上を達成し、申請は適正な事務処理を行うことが出来た。
			評価者 調査係長 金澤 博司

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
 (評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	GISを活用した過去資料の電子化を継続的に進めることにより、発行に数日を要していた事務作業が当日発行可能となるケースが増え、業務の効率化が図れている。
			評価者 調査係長 金澤 博司